

CASE 7 グループリーダーとして、講師として多数の視覚障害者が活躍
NTTクラリティ株式会社

PROFILE

事業所 NTTクラリティ株式会社



所在地／東京都武蔵野市
事業概要／日本電信電話株式会社（NTT）の特例子会社。障害者・高齢者向けのポータルサイトの企画・運営、ウェブアクセシビリティの診断・研修等のユニバーサルデザイン・バリアフリー化支援サービス、各種資料の電子化、名刺作成、NTT電話料金の問い合わせ等の業務を展開。

本人 こだか ともあき
小高 公聡さん
年齢／44歳 障害の程度／障害等級1級
これまでの経緯
網膜色素変性症のため視力が低下し、30代半ばに勤務していた金融機関を退職。その後プログラミングやネットワークについて学ぶ。2004年12月からNTTクラリティの準備室に勤務。2005年4月NTTクラリティ設立と共に異動。現在の視力は光を感じる程度。白杖使用。

本人 おとさわ ようこ
男澤 洋子さん
年齢／33歳 障害の程度／障害等級1級
これまでの経緯
網膜はく離のため、18歳時に手術を行う。右目はほとんど見え、左目は0.03程度。視野のところどころが欠損しており、特に下の方は見えない。また暗い所では見えにくい。パソコンスキルを習得するための職業訓練を1年間受講。スキルを活かしデータ入力の仕事で2年間就労したあと、2007年からNTTクラリティに勤務。

雇用までの道のり

特例子会社を設立し、障害にあわせた配慮を行う
NTTクラリティ株式会社は、日本電信電話株式会社の特例子会社で、現在、従業員は127名。そのうち約90名が障害者です。肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、内部障害、知的障害とさまざまな種類の障害者が勤務しており、視覚障害者は9名になります。
設立に際しては、「障害者作業施設設置等助成金」や「重度障害者等通勤対策助成金」を活用して施設をバリアフリー化したり、駐車場を確保するなどして受け入れ態勢を整備しました。

CHECK! IE P19 用語解説「特例子会社」「重度障害者等通勤対策助成金」
P56 「障害者作業施設設置等助成金」参照

それぞれの障害に配慮した取り組みがなされていますが、視覚障害者が安全に移動できるように、「ドアを引き戸にする」、「曲がり角はじゅうたんの色を変え、わかりやすくする」、「カウンターやキャビネットに緩衝材を貼り、

ぶつかった際のショックを和らげる」、「案内表示を白黒反転させて、見やすくする」などの配慮をしています。
また、障害の状況にあわせた支援機器を整備し、「申請書類は電子化する」、「会議資料を事前に電子データで配布する」、「伝達事項は口頭だけでなくメールで周知する」、「社内掲示等はテキスト版にして配信する」などパソコンと支援機器を活用して情報の共有化を図っています。
これらについては、準備室の段階から小高さんをはじめ各社員の意見を聞きながら整備してきたことです。



その他、障害に応じた通院等のための休暇制度を設けており、小高さんもこの休暇制度を利用して週3回の透析治療を行っています。

グループリーダーや外部研修の講師として活躍

小高さんは、網膜色素変性症のため視力が徐々に低下し、30代半ばでそれまで従事していた仕事を継続することが困難になり退職しました。その後、歩行技術や点字を習得する訓練を受け、国立職業リハビリテーションセンターでプログラミングやネットワークについて勉強しました。
就職面接会でNTTクラリティの設立スタッフと出会い、自身の経験からホームページの利用しにくさなどについて



説明し、障害者が暮らしやすい社会をつくりたいという思いを伝えました。このときの話が現在の業務につながっています。
現在はウェブサイトグループに所属し、15名のグループメンバーの統括として、ウェブアクセシビリティの診断、見やすいホームページの制作、各種研修の受託、講演活動、ポータルサイトの運営、携帯電話教室などの業務に携わっています。

CHECK! IE P19 用語解説「ウェブアクセシビリティ」参照

グループリーダーとしてそれぞれのメンバーの業務の進捗状況を把握し、必要なアドバイスをし、より良い業務が遂行できるようにマネジメントしています。自身もこれまでのキャリアを活かし、研修や講演の講師として積極的に活動しています。
全盲のため、読み上げソフトを利用して業務を遂行していますが、作成した書類のレイアウト調整や、研修・講演など出張の際のガイドは他の障害種類のメンバーがサポートしているそうです。
業務を円滑に進めることを考えて、「相手が在席しているかどうか確認するためにメッセージャーを利用し、開封確認が届いたところでその席へ向かう」、「よく使う語句を単語登録しておき、パソコン入力速度が落ちないようにす

障害に合わせた配慮事項



じゅうたんの色を変える




【視覚障害者に対する配慮事項】

- ・ドアを引き戸にする
- ・曲がり角でじゅうたんの色を変える
- ・キャビネットやカウンターに緩衝材をつける
- ・白黒反転した案内表示をつける
- ・障害に応じた支援機器を整備する
(拡大読書器、画面読み上げソフト、画面拡大ソフト等)
- ・申請書類を電子化する
- ・会議資料等を電子化して事前に配布する
- ・掲示物はテキストファイルで配信する
- ・伝達事項は口頭だけでなくメールで周知する
- ・外出時のガイド
- ・通院等のための休暇制度



自動ドア

【その他の障害者に対する配慮事項】

- ・自動ドア、スロープの設置
- ・駐車場の確保
- ・トイレの設置
- ・非常災害を知らせるフラッシュライトの設置
- ・自助具の活用
- ・要約筆記の導入
- ・筆談器の設置
- ・手話サロンの開催



る、「備忘のためにこまめにメモを残す」など、小さな工夫も積み重ねています。

最近では、ウェブアクセシビリティに関心を持つ自治体や企業も増え、研修や講演の依頼が多くなっているそうです。小高さんは「障害のある方にとって少しでも暮らしやすい社会をつくりたいという希望が、こうした業務を通じて少しずつ達成されることがとても嬉しく、これからも障害者がチャレンジできる社会づくりの一役を担いたい」と考えています。会社からも、管理職としてさらに力を発揮することを期待されています。

サイトの企画から執筆まで、仕事の幅が広がる

一方、男澤さんは、網膜剥離のため18歳のときに何度か手術を行いました。現在右目は見え、左目の視力が0.03程度です。視野のところどころが欠けており、特に下の方は見えにくく、全体に磨りガラスを通して物を見ているような感覚だそうです。

男澤さんも歩行技術や点字の習得の訓練を受けた後、国立職業リハビリテーションセンターでパソコンスキル習得のための職業訓練を受講しました。訓練終了後は、パソコンスキルを活かして、データ入力の業務に就きました。2年ほど経過した頃、NTTクラリティの求人を知り、新しいことにチャレンジしたいという気持ちで転職しました。

現在は主に、障害者や高齢者向けのポータルサイト「ゆうゆう」の企画・運営に携わっています。企画に際してはグループのメンバーとディスカッションを重ねます。どのような情報が障害者や高齢者にとって役立つのか、また、どのように掲載すると利用者にとって見やすいのか、日々検討しながら業務を進めています。

サイトに記事を掲載するために自ら取材し、記事も執

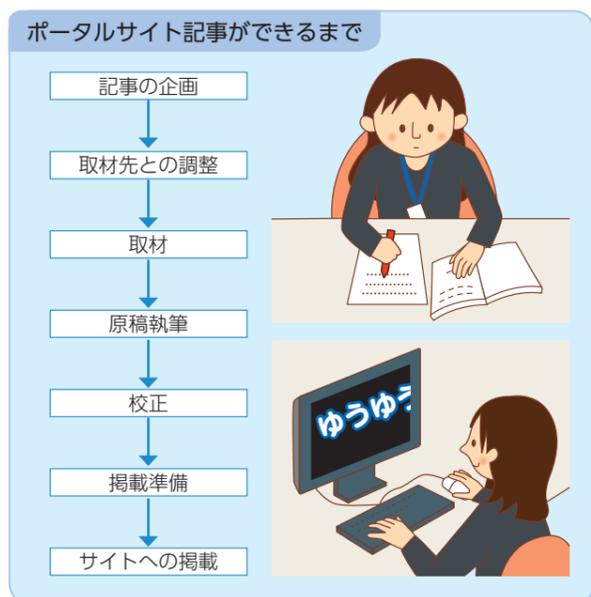


筆しますが、ひとつの記事ができあがるまでには、取材先との交渉や調整が何度も必要になります。過去に経験した定型的な職務と比べると仕事に広がりがあり、とてもやりがいがあると感じています。最近では、視覚障害者向けの携帯電話教室の講師としてNTTドコモの社員とともに外出することも増えており、さらに職務の幅が広がっています。ハンディをカバーする工夫や便利な使い方を多くの人に知ってもらうことで、障害のある人が少しでも快適な生活が送れることを願っています。

業務を遂行する際は、音声読み上げソフトや画面拡大ソフトをインストールしたパソコンのほか、拡大読書器を使用していますが、ハード面が整備されているだけでなく、ソフト面でもいろいろな障害者がお互いに必要な配慮をしているそうです。そのためにも、自分自身についてどんどん発信していくことが大切と考えており、「これはできる



拡大読書器を利用



けれど、ここはサポートがあるとありがたい」ということを積極的に伝えているといいます。

風通しの良い、和気あいあいとした職場で業務に打ち込んでいる様子が伝わってきました。勤務して2年が経過しましたが、「これからも自分のできることにチャレンジしてどんどん仕事の幅を広げたい」と考えています。

お互いの障害をサポートして働きやすい職場を作る

NTTクラリティでは、小高さんや男澤さんのほかにも視覚障害者がウェブサイトグループの業務についています。多くのメンバーが職業訓練等で習得した知識や技術を業務に活かし、活躍しています。また、視覚障害以外の障害者も、さまざまな職場で一人ひとりが責任を持って業務に参加しています。

いろいろな障害を持った社員がお互いの障害を理解することに努め、視覚障害者に対する資料の読み上げや外出の際のガイドと同様に、たとえば、聴覚障害者が情報を得やすいように、視覚障害者がパソコンで要約筆記をして会議を進めるなど、お互いの障害をサポートし、働きやすい職場を作っています。

そのことが「障害者が暮らしやすい社会をつくる」というNTTクラリティのビジョンの基礎になっています。今後も、社員一人ひとりの力が積み重なって、多くの障害者にとって役立つ事業が展開されていくことでしょう。

用語解説

特例子会社

障害者雇用率制度において、障害者の雇用機会の確保（雇用率1.8%）は個々の事業主ごとに義務付けられています。一方、障害者雇用の促進及び安定をはかるため、事業主が障害者の雇用に特別な配慮をした子会社を設立し、一定の要件を満たす場合には特例としてその子会社に雇用されている労働者を親会社に雇用されているものとみなして実雇用率を算定できることとしています。また、特例子会社を持つ親会社については、関係する子会社も含め、企業グループによる実雇用率算定を可能としています。

重度障害者等通勤対策助成金

重度身体障害者、知的障害者、精神障害者または通勤が特に困難と認められる身体障害者を雇い入れるか継続して雇用している事業主が、これらの者の通勤を容易にするために措置を行う費用の一部を助成するものです。具体的には、通勤のための駐車場の賃借、通勤用バスの購入、住宅手当の支払い等が該当します。

CHECK! P56 「障害者雇用納付金制度に基づく主な助成金」参照

ウェブアクセシビリティ

「アクセシビリティ」とは「近づきやすさ」という意味の英単語で、情報やサービスが、どの程度広汎な人に利用可能であるかを表します。特に高齢者や障害者などハンディのある人がどの程度利用しやすいかという意味で使われます。Webページについての利用しやすさを「ウェブアクセシビリティ」といいます。

MESSAGE
メッセージ

障害のある・なしでなく 総合力が大切

取締役・経営企画部長
まかべ たけひろ
間壁 武宏 さん

2004年にNTTが特例子会社を設立することが決まりました。当時、ハローワークが主催する就職相談会に参加していたNTTグループの別会社のブースに、設立スタッフが同席していたところ、小高さんが応募してきました。多くの障害者を雇用する特例子会社として、「障害者のためになることを事業に取り入れたい」という会社の方針と、「障害者が暮らしやすい社会を作りたい」という本人の志望動機がマッチしており、就業経験もあり障害者の中でリーダー的な役割を担えると思い、準備室の段階から勤務してもらうことにしました。

この当事者としての視点と社会人経験者としての視点双方に立って、準備段階からいろいろ議論できたことが現在につながっていると思っています。

一方、男澤さんは、ポータルサイトの企画運営にあたり、ライターの人材を出していたところ応募がありました。明るくしっかりした人柄で、クリエイティブな仕事がしたいと意欲的であり、力を発揮してもらえと思い採用しました。

二人とも、自分ができることとサポートが必要なことを周囲にはっきりと伝えることができるので、雇用する側が不安に感じることはありません。

仕事の幅も徐々に広がっており、小高さんはウェブサイトグループの統括リーダーとして、男澤さんはポータルサイトの運営のほか携帯電話教室の講師としても活躍しています。これからもキャリアアップをしてほしいと考えています。

健康者だからといってすべてのことができるわけではありません。障害がある、ないに関わらずパフォーマンスやポテンシャルなどの総合力が大切だと感じています。